

## 勤務医部会だより

### 病院は女性活躍社会と言えるのか



幹事 成瀬友彦  
(春日井市民病院 院長)

非常事態宣言による自粛生活の効果もあり、コロナ感染が少し沈静化してきた2月初め、東京五輪組織委員会会長である森元首相の女性蔑視をめぐる発言が物議を醸し、大きなニュースとなりました。森氏は以前から“日本は神の国…”など、様々な発言が問題視されるなど失言の多い政治家です。特に私が大好きで応援していた浅田真央さんが、ソチオリンピックショートプログラムで転倒、16位に沈んだ際の“この子は大事な時に必ず転ぶんです”という発言には怒り心頭、本当に憤慨しました。その後のフリーで歴史に残る名演技を披露してくれたことで留飲は下がりましたが…今回の発言も第一報を耳にした時には、またかという思いとともに、女性活躍が叫ばれる日本ではかなり問題になるなあと思いましたが案の定でした。

しかしその一方でマスコミの相も変らぬ切り取り報道や、徹底的に痛めつけるやり方に疑問も感じました。森氏が実際に述べたのは“…女性が多いと会議がなかなか終わらなくて困る、と誰かが言っておられた。…この組織委員会には女性が7人くらいおられますが非常に役に立っている。…したがって次の委員には女性を選ぼう、というわけであります”であり、全体を読めば女性蔑視でないことは誰でも理解できます。森氏はサービス精神旺盛でスピーチに笑いを交えようとすることも多いらしく、今回も逆説的に女性を持ち上げたのが裏目に出たようです。とはいえ発言自体は不用意、としか言いようがありませんが。その点ではスピーチに笑いもありながら、まず失言をされなかった安倍前首相は大したものです。また最近“この人は悪い。叩いても世間から反感を買わない”とわかれると、徹底的に叩きのめす姿勢も問題です。

それにマスコミも正面切って森氏を非難できるのでしょうか。在京テレビ局の番組制作部門のトップ

に女性はゼロ、民放連の理事45人のうち女性理事はゼロ、新聞協会の理事53人のうち女性理事はゼロ、だそうですから、女性進出を語るにはいかがなものかという状況です。こうした自らの現状を同時に報道し、自戒の念も込めて意見すべきだと思います。

さて省みて我々の医療界はどうでしょう？当院の状況をみますと、約1000人の常勤職員のうち4分の3が女性です。特に看護部は約600人がほぼ女性で占められており、病院での最大与党です。発言力も大きく、病院の大事な決定をする時には事前に看護部に相談、承諾を得ておくことが肝要であることは言うまでもありません。この構造は我が家に当てはめても同じで(笑)妻の意見を聞かずして大きな決定はできません。

では医師はどうでしょう。当院には約140名の医師がいますが、女性は約30名前後、20%強といったところです。最近では内科外科を専門とする女性も増えてきましたが、仕事ぶりは男性と全く変わりません。それどころか手早く積極的にさえあり、時間外の緊急の依頼に対しても“No~”ということはずがなく、スタッフからの信頼は厚いものがあります。私も採用などに当たって男女の違いを意識することは全くありません。

その一方で病院管理者は圧倒的に男性社会です。私も令和元年に院長を拝命し、多くの院長会議に参加しましたが、総合病院の院長に女性は皆無であり、副院長に女性医師が就任している病院もごくわずかです。看護部長が副院長を兼ねる病院も増えてきましたが、形式的な側面もあるように思います。もちろん実力のある方もいらっしゃるのですが、軽はずみなことは言えませんが…(こういう発言が切り取られるのでしょうか!?)

そもそも男性と女性では思考が異なるように思います。男性は5年後10年後など、遠くを見通す能力、将来展望を立てることには長けていますが、女性は目の前に立ちだかる問題点や危機の対処法などに優れた能力を発揮するように思います。従って両者の意見を出し合い、まとめることで良い結論が導き出されるはずで、病院の現場だけではなく、院長・副院長などの幹部職員に、積極的に女性を登用していくことを考えなければいけない時期が来ているのではないかと感じているこの頃です。